

1日 月曜

ヨブ記



- 16:1 ヨブは答えて言った。
16:2 そのようなことを、私は何度も聞いた。
あなたがたはみな、煩わしい慰め手だ。
16:3 むなしいことばに終わりがあろうか。
あなたは何に興奮して答えるのか。
16:4 私もまた、あなたがたのように
語ることができる。
もし、あなたがたが
私の立場にあったなら、
私はことばを連ねてあなたがたを攻撃し、
あなたがたに向かって、
頭を振ったことだろう。
16:5 私は口先だけであなたがたを強くし、
私のくちびるでの慰めを
やめなかったことだろう。
16:6 たとい、私が語っても、
私の痛みは押えられない。
たとい、私が忍んでも、
どれだけ私からそれが去るだろう。
16:7 まことに神は今、私を疲れさせた。
あなたは私の仲間の者を
ことごとく荒らされました。
16:8 あなたは私を、つかみました。
私のやせ衰えた姿が、証人となり、
私に向かって立ち、
面と向かって答えをします。
16:9 神は怒って私を引き裂き、
私を攻めたて、
私に向かって歯ざしりした。
私の敵は私に向かって目をぎらつかせる。
16:10 彼らは私に向かって口を大きくあけ、
そして私の頬を打ち、
相集まって私を攻める。

- 16:11 神は私を小僧っ子に渡し、
悪者の手に投げ込まれる。
16:12 私は安らかな身であったが、
神は私を打ち砕き、
私の首をつかまえて粉々にし、
私を立ててご自分の的とされた。
16:13 その射手たちは私を巡り囲み、
神は私の内臓を容赦なく射抜き、
私の胆汁を地に流した。
16:14 神は私を打ち破って、破れに破れを
加え、
勇士のように私に向かって馳せかかる。
16:15 私は荒布をはだに縫いつけ、
私の角をちりの中に突き刺した。
16:16 私の顔は泣いて赤くなり、
私のまぶたには死の陰がある。
16:17 しかし、私の手には暴虐がなく、
私の祈りはきよい。

ヨブに同情して始まった友人たちの助言でしたが、今はヨブを「煩わせ」「むなしい」思いにし、「立場」が逆ならば分からせてやりたいが…というような思いにまでさせてしまいました。ヨブは神が仲間をそうさせた（荒らされた）とまで感じ、神の責任とまで思っています。
人は辛いときにはそのような考えに陥ります。しかし、神の真理は違います。神様はヨブに知って欲しい御心と回復の祝福を用意して、待っておられたのです。
悪い方に悪い方に…考えずに、神の回復を信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

